豊中市立図書館　オンラインシンポジウム

～図書館でつながる新たな可能性～

「これからの図書館の可能性について」

奈良大学　文学部　司書課程　　嶋田　学

１．「これからの図書館」を取り巻く環境

１）「高齢者」という市民との関係
利用者であり、協働におけるメインプレイヤー

２）「判断根拠」語らない「AI」という知恵との付き合い方
人工的な手段で実現され，知覚，インタラクション，推論（推理），問題解決，言語，連想，学習などの知的情報処理を自律的に遂行することができる情報処理メカニズム。

３）「Society 5.0」と図書館に期待されるもの
狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、
工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、
新たな社会

1.「これからの図書館」を取り巻く環境

1)「高齢者」という市民との関係

利用者であり、協働におけるメインプレイヤー

市民ボランティア組織の課題は「高齢化」と言われるが…

→ 可処分時間を持つ年代層は、自ずと壮年、高齢層。

これからは、高齢者の層が厚くなっていく時代

→ 市民協働のチャンス

→ 高齢者が市民協働を引っ張り、図書館という「場」を活かして多様な年代層の市民の参加を得て、新たな公共領域を創造していける時代

1.「これからの図書館」を取り巻く環境

1)「高齢者」という市民との関係

＊高齢者という存在の捉えなおし

→ 主体性、当事者性、未来展望性を喚起する活動

→ 加齢という課題を情報と実活動の両面で解決支援

＊高齢福祉系部局との連携

１．「これからの図書館」を取り巻く環境

２）「判断根拠」語らない「AI」という知恵との付き合い方

人工的な手段で実現され，知覚，インタラクション，推論（推理），問題解決，言語，連想，学習などの知的情報処理を自律的に遂行することができる情報処理メカニズム。

→ 行動選択肢の提案や意思決定を支援してくれるが…
現在の技術では、「なぜ、そうなのか」という判断根拠を示せないのが、AI（人口知能）の限界。

→ AIが代替不可能な領域で「人間らしさ」を高める好機

１．「これからの図書館」を取り巻く環境

２）「判断根拠」語らない「AI」という知恵との付き合い方

→ AIが代替不可能な領域で「人間らしさ」を高める好機

＊人は、なぜ生きるのか？

＊人にとって幸福とは何か？それはどのような理由？

＊平和をもたらすためのコミュニケーションとは？

＊図書館が先人の知恵の集積体として提供できる知恵

＊人と人が、何らかの興味関心でつながることを支援

＊知と情の両面の精神活動を支える

１．「これからの図書館」を取り巻く環境

２）「判断根拠」語らない「AI」という知恵との付き合い方

→ AIが代替不可能な領域で「人間らしさ」を高める好機

＊人の「人生観」の背景にあるものが「物語」（ナラティブ）

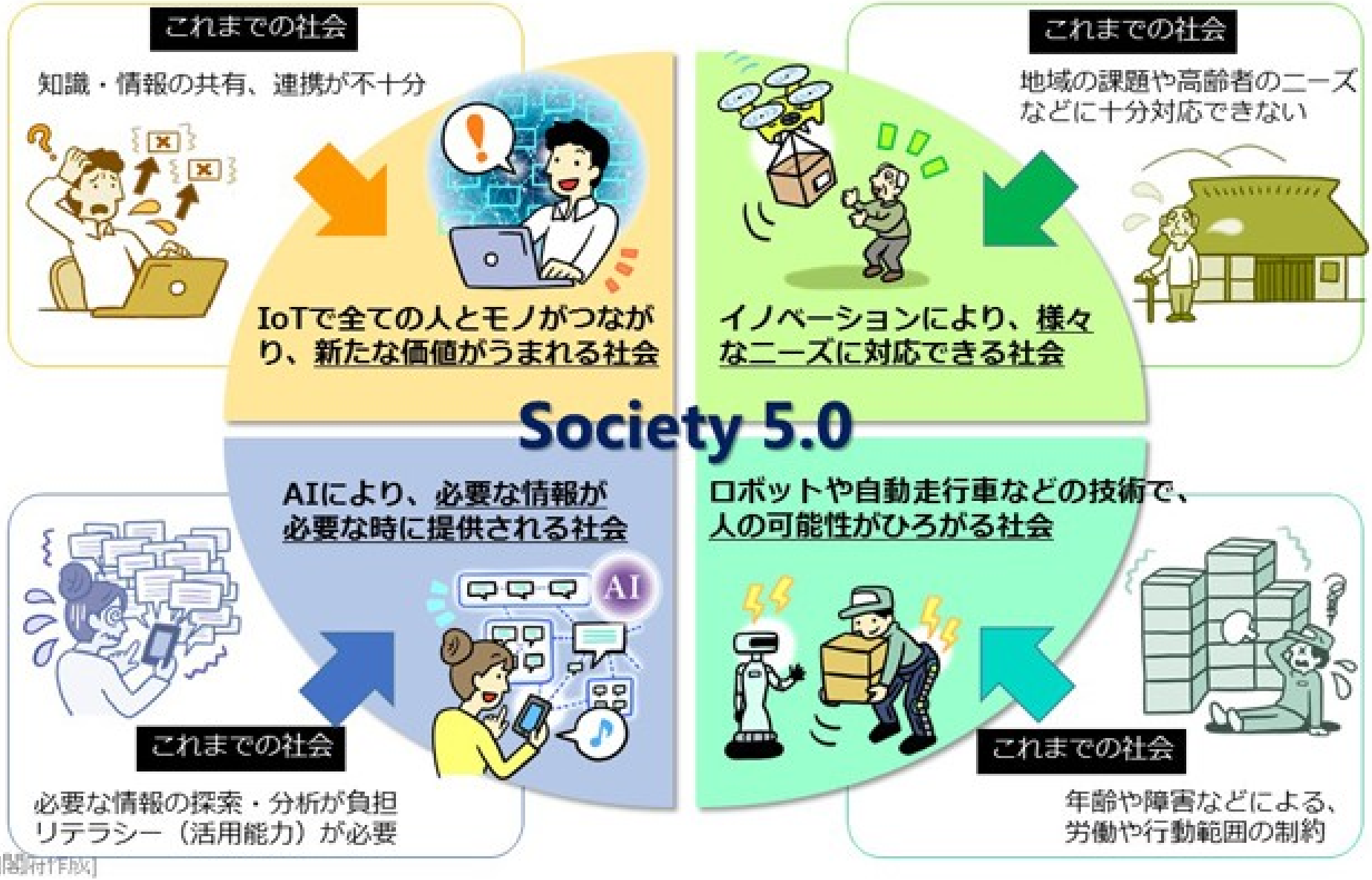
人が生きる「物語」は、「知性」と「感情」によって生成される。人が生きている時間には、その人独自の、あるいは他者や社会との関係性の中で織り重なった「物語」があり、そこに生きる意味が刻印されている。

１.「これからの図書館」を取り巻く環境

３）「Society 5.0」と図書館に期待されるもの

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、
工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、
新たな社会

→ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）



出典：内閣府　Society 5.0
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

１.「これからの図書館」を取り巻く環境

３)「Society 5.0」と図書館に期待されるもの

「Society 5.0で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じてこれまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。」

出典：内閣府　Society 5.0

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

経済発展

- エネルギーの需要増加
- 食料の需要増加
- 寿命延伸、高齢化
- 国際的な競争の激化
- 富の集中や地域間の不平等

社会的課題の解決

- 温室効果ガス（GHG）排出削減
- 食料の増産やロスの削減
- 社会コストの抑制
- 持続可能な産業化
- 富の再配分や地域間の格差是正

IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、
格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供

「Society 5.0」へ

経済発展と社会的課題の解決を両立

[内閣府作成]

解決されるのは「外的要因」…人にとって社会とは？

２.「これからの図書館」をどう創造し経営するか

１）公設公営（直営）の図書館経営の優位性とは？

＊言われていること

・司書の継続的雇用によって、経験や知識が蓄積され専門性の維持向上が担保される。

→ 雇用環境の変化（職員の継続的雇用は縮小）

専門職制を維持していない自治体では困難

→ むしろ司書比率は外部委託によって高まる

・市民協働、行政連携がスムーズに展開できる。

→ 武雄市図書館（いわゆるツタヤ図書館）

「認知症カフェ」（社会福祉協議会）

「ブックスタート」（子育て支援課＋読書ボランティア）

２.「これからの図書館」をどう創造し経営するか

１）公設公営（直営）の図書館経営の優位性とは？

＊自治体政策の展開という観点で図書館施策を捉えているか？

＊市民の暮らしや仕事を「学び」という視点で捉え、資料・情報の選定や提供企画を検討、実施しているか？

＊経営環境を自明視せず、市民ニーズや時代状況に即して改善していく思考と実践を行っているか。

＊市民を単なるサービス対象としてではなく、自治の担い手と捉え、パートナーシップをもって接しているか？

2.「これからの図書館」をどう創造し経営するか

2）図書館の公共性の意味を問い、そのあり方を再構築する

＊「公共」とは、「みんなの…」ということ

→ 一部の市民の図書館サービスになっていないか？

→「強いニーズ」＝「多くの市民」とは限らない

「みんな」を意識してニーズを把握し、ウォンツを引き出せているか？

↓

さらには、「みんな」との積極的な関係性の構築を通して、市民や地域社会にあるニーズを創出できているか…

2.「これからの図書館」をどう創造し経営するか

2）図書館の公共性の意味を問い、そのあり方を再構築する

＊関係性マーケティング

「売り手と顧客が相互作用、双方向コミュニケーションを通して信頼性を構築しながら、立場を超えて一体化することにより、新して価値を創っていく」という概念。

→ 需要が潜在的に存在するという前提に立ちニーズを考えるのではなく…

→ 顧客との交互作用的なコミュニケーション活動によって生まれるニーズは、売り手と顧客との間に共創的に生まれる、と考える。

『図書館制度・経営論』（ミネルヴァ書房）第9章　永田潤子

３.「これからの図書館」のために…

１）市民と一緒に「これからの図書館」を考える機会をつくる

＊「公共」の仕事を官が独占してやり切れるほどに、社会の状況は単純でなくなった。

＊多様な価値観、立場、環境、課題、展望の中にある市民の人生を「教育と文化の発展に寄与する」（図書館法第１条）という目的のもと、資料・情報の提供を通して支援するという図書館の任務を、司書という専門性のみに依拠して、限られた人員で実行しようと考えるには無理がある。

→ 市民協働とは、目的でも課題でもなく、公共図書館という責務と仕事を全うするために、避けては通れない手段。

３.「これからの図書館」のために…

２）市民と共に創りだし、共有すべき図書館の価値と意味

＊図書館が提供するのは、資料、情報なのか？

→ 市民が資料や情報に求めているものは、「気づき」や「学び」によって得られる「喜び」や「楽しみ」、そして、「成長」や「充実感」など、人間としての「幸福感」なのではないか。

→ 図書館という「場」における「機能」や「役割」を通して市民の「幸福実現」をもたらせることが、図書館という公共施策の「価値」であり、そこに図書館員と市民の協働という関係性の「意味」があるのではないか。

３.「これからの図書館」のために…

２）市民と共に創りだし、共有すべき図書館の価値と意味

＊図書館が提供するのは、資料、情報なのか？

→ 市民の「幸福実現」をもたらせること

＊資料、情報提供を通した「知」との出会い

＊「気づき」や「学び」を得た人と人との交流（対話）の創出

＊人それぞれのナラティブ（物語）づくりの支援

＊上記を市民と共創するコミュニティづくり

４．コロナ禍の図書館サービスを考える

①非来館型サービスの充実を早急にはかる

・オンラインデータベースの提供

・自館地域資料等のデジタルアーカイブ化による提供

・オーディオブックの導入検討

・電子図書館システムの導入とコンテンツの購入

・おはなし会（読み聞かせ等）のWeb配信と著作権処理

・レファレンスサービスのWeb対応の環境整備

・墨字資料の郵送サービス等の充実のための予算措置

４．コロナ禍の図書館サービスを考える

②図書館サービスのリ・デザイン

１）「貸出し」、「資料・情報提供」のあり方の根本的な考察

◎公共図書館が提供する「価値」と「意味」の再考

＊民間商用サービスが「サブスクリプション」で雑誌や書籍の配信サービスを展開する中、紙の本をニーズに合わせて「お待たせしない」程度に複本を用意し、提供していくサービスが、公共サービスとしての優先度が高いのか？

→ 多様な出版物がある中で、要求の多いものに資源を投入することは、公共サービスを市場的な価値基準で調整していることにならないか…

４．コロナ禍の図書館サービスを考える

②図書館サービスのリ・デザイン

１）「貸出し」、「資料・情報提供」のあり方の根本的な考察
より多くの「貸出し点数」ではなく、より多くの貸出し利用者数（延べ利用者数ではなく実利用者数）、つまりより多くの市民が貸出し利用をすることを目指すべきではないか。

→ コレクション形成のあり方の抜本的な再考

４．コロナ禍の図書館サービスを考える

②図書館サービスのリ・デザイン

２）「物語」と「コミュニティ」を提供する

様々な境遇、背景をもつ市民の生活や仕事、人生全般にかかわる「個人」の「物語」を支える資料や情報、あるいは人と人、人と地域の関係性へのかかわりを支援する。

→「コミュニティ」への参画やその人の「コミュニティ」づくりを支援する。

＊図書館自体が、「個人」への「物語」の提供のための「コミュニティ」となることも含む。

おわりに…
これからの図書館の可能性について

ソーシャルディスタンスについて

ロバート・キャンベル
東京大学名誉教授　国文学研究資料館館長

「今はまだ物理的な距離として考えられていますが、社会の中の自分自身の位置づけを知る、自分の居場所から他者との関係を見つめ直すことだとも捉えたい」

村上陽一郎編『コロナ後の世界を生きる』（岩波新書）

おわりに…
これからの図書館の可能性について

・人が人らしく生きることを支える図書館

・人の「物語」を生成する「知」との出会いをつくる

・人が「知」を得るために必要な「対話」（交流）を醸成する

・人が「知」を得るための「思考」を促す

・これらの営みによって、私たちの「コミュニティ」をつくる

オンラインシンポジウム

～図書館でつながる新たな可能性～

「これからの図書館の可能性について」

奈良大学　文学部　司書課程　　嶋田　学